

私が出会った大学図書館

山口真紀 専任講師

(日本語)

私は日大経済学部にて専任教員として着任する前に、非常勤の講師として複数の大学で働いていました。大学生の皆さんには想像できないかもしれませんが、「毎日違う大学に通う日常」はとても素敵なおものでした。キャンパスの様子、学生の様子、食堂のメニュー、購買部で売っている物、大学によってそれぞれに違いがあります。中でも大学の図書館に立ち寄ることは、私の楽しみのひとつでした。どの図書館にもそれぞれに思い出がありますが、ここではその中から3つの図書館をご紹介します。

東京工業大学大岡山キャンパスには、その独特な形から「チーズケーキ」と呼ばれる図書館があります。2011年に完成したこの図書館は、そのモダンなデザインでグッドデザイン賞を受賞しています。美しい光がさんさんと入り込む館内は、窮屈な感じが全くなく、何時間でもいられます。どの机にも電源があり、PC作業ものびのびとできます。もはやスターバックスに行く必要はありません。以前、オランダから来た留学生にここを案内した時、「ここはデルフト工科大学(オランダの理系大学)と同じ空気だ!」と言っていました。文系出身の私には、今ひとつこの感覚がわかりませんが、確かに「他の図書館と明らかに違う何か」があります。世界に通じる(?)理系大学の空気がここで体験できます。

博士論文を執筆していたときに、最もお世話になったのが、青山学院大学相模原キャンパスの図書館です。正式名称は万代記念図書館と言います。私の専門は、留学生を対象とした日本語教育ですが、第二言語習得、翻訳理論、日本文学、言語学など、他分野にわたる研究をしています。研究で困った時、ここに行けばどんな本でもありました。雑誌や気軽に読める洋書も充実しています。しなければならないことがある時に限って無性に他のことがしたくなるのは人間の性ですね。研究書を読まなければならないのに、これらの本がいつも私を呼んでいて、パラパラ読み初めて気がついたら時間が経っていたということがよくありました。美しい芝生と教会が図書館の1階席の窓から見え、「ここは外国?!」と錯覚してしまいます。クリスマスの時期にはライトアップされたキャンパスが更に美しくなります。

東京大学の本郷キャンパスには、各学部や研究所の図書室を合わせると18個も図書館があるのをみなさんにご存じですか。中でも最も有名なのは総合図書館で、蔵書数は130万

冊、140年あまりの歴史を持つ図書館です。一步入ればそこは別世界。赤い絨毯が敷かれた大階段が有名ですが、その周辺の大理石にアンモナイトの化石が入っていると知ったときは驚きました。館内には『レ・ミゼラブル』の作者として有名なビクトル・ユゴーの胸像や作曲家ショパンの手の石膏型などがあり、まるで美術館のようです。天井や壁の装飾やシャンデリアなど見所いっぱい、ただ階段を上っているだけでも楽しいものでした。ただそこにいてだけで贅沢な気持ちになれる図書館です。

学生のみなさんは、どのぐらいの時間を図書館で過ごすのでしょうか。これを読んで、みなさんは私が相当長い時間を図書館で過ごしていたと思ったかもしれません。ですが、それは違います。特別な場合を除いて、一回の滞在時間は毎回10分～20分程度、長くて1時間程度でした。当時は子供がまだ保育園で、大学の授業を終えたら残務をこなし、帰宅するという余裕のない生活でした。授業後のほんの短いひとときに研究のために立ち寄り場所、それが図書館でした。時間に追われ、図書館に向かうためにキャンパス内を爆走することもよくありました。ですが、その10分が私を別世界へ誘ってくれました。図書館とは不思議な場所です。そこに一步入った瞬間から「自分のためだけの静かで特別な時間」が始まります。10分でも20分でもいいのです。大学生の特権、大学図書館という大学の中の別世界を、みなさんもぜひ楽しんでください。

筆者自己紹介

山口 真紀（やまぐち まき）

2023年に経済学部に着任し、留学生対象の日本語の授業を担当しています。専門は日本語教育学、第二言語習得です。今まで、交換留学生、学部・大学院留学生、外国人研究員などさまざまな方に日本語を教えてきました。留学生の皆さんと日本語を通して交流するひときは私にとって幸せで大切な時間です。